

令和7年度 学校運営等に関する評価書（案）

| | |
|-----|-------------|
| 学校名 | 和歌山市立 和佐小学校 |
| 作成日 | 令和8年3月4日 |

1 教育目標

『心身ともに健康で 自ら学び 地域と共に生きる子どもを育てる』

2 学校自己評価についてのご意見

| | 地域とともにある学校 | 豊かな心と健やかな体の育成 | 確かな学力 |
|-------------|--|--|--|
| 指標 | <ul style="list-style-type: none"> 学校の様子が伝わった（保護者アンケート85%以上） 学校運営協議会による学校評価 | <ul style="list-style-type: none"> 「早寝・早起き・朝ごはんができる」（児童・保護者アンケート80%以上） 「相手の気持ちを考える心を育む取組を行っている」（保護者80%以上） | <ul style="list-style-type: none"> 国および県学力・学習到達度調査の平均点が同等程度となる。 「毎日の授業はよくわかる」（児童アンケート80%以上） 「子どもの学力はついていっていると感じる」（保護者アンケート80%以上） |
| 重点目標に対する意見 | <ul style="list-style-type: none"> 地域教育力の有効活用 学校の情報提供 学校運営協議会との連携・協働 | <ul style="list-style-type: none"> 特別の教科道徳、人権教育の充実 体力の向上と共に健やかな体の育成 生活指導の充実（情報モラル教育等含む） 仲間づくりの推進 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着（学習タイム等） 学習における書くことを意識した授業の取組 生活科、総合的な学習の時間を中心に、児童が主体的な学びの姿勢を育てる取組 |
| 取組状況に対する意見 | <ul style="list-style-type: none"> 「学校だより」や「ホームページ」により、学校の情報が地域の人に知ってもらう手段となっていて、学校の様子がよくわかる。 今後も、学校運営や様子が分かるように情報発信をお願いしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校現場においてICT化を含め、人権や情報モラルの点で、児童も教師もアンテナを高くして、児童の様子を見守る必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 生活科や総合的な学習の時間を利用した幼小連携の取組は、相手を意識して、子どもたちが主体的な学びを育てる原動力となり、交流することで相手意識をもった表現力の育成にも繋がる。 |
| 取組の適切さの検証 | <ul style="list-style-type: none"> 学校、保護者、地域の三者が情報を共有する中で、地域から学校へ情報を提供することも今後進めていきたい。（通学路の危険箇所等の共有・対策等） | <ul style="list-style-type: none"> ボランティアで学校を訪れた際、児童は元気な挨拶ができています。 遅く登校する児童が少なくなってきた。 教育活動全体で道徳教育に取り組み、いじめアンケート等で実態を掴みながら、いじめを未然に防ぐことをこれからも続けていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域教材を取り上げて、地域の特色や良さを感じ学習することが、調べる意欲や伝える喜びになり、学習することの楽しさへ繋がってほしい。 |
| 改善方法に向けての意見 | <ul style="list-style-type: none"> 学校が地域の状況を十分理解し、交通事故、水難事故防止（田植え期の用水路等）や啓発に取り組む。 南海トラフ地震の危険性が大きくなってきている現在、ハザードマップを活かした児童の防災対策や訓練が最重要視されなければならない。 いつ、どこで災害が起こるかわからないが、児童が自身で判断して避難できる訓練や防災教育を徹底する必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 今後も、全ての児童が安全に楽しく学校に来れるよう、教職員の教育活動に期待する。 教員や周りの大人たちも、人権意識をしっかりと身につけて、児童の指導に当たることが大切である。 自分の人権を守り、他者の人権をも守ろうとする実践行動を益々高めて欲しい。 自身の感情を優先するのではなく、相手の気持ちや立場を先ず考えられる児童の育成が大事である。 | <ul style="list-style-type: none"> 世の中がデジタル化してきた今、文字を書く機会が少なくなってきた。学校では、いろいろな機会を通して、文字や作文を書くという活動を増やしていき、自分の思いが相手に伝えられる力が重要である。 図書ボランティアでは、読み聞かせ等児童が図書館に馴染みやよい環境を整える活動を今後も続けていこうと思う。 |

3 その他のご意見

- 相手の心に響くような作文が書ける児童の育成を図ってほしい。それが人権教育に繋がる。
- 和佐のPTA会員の減少により活動が困難化しているのが心配である。昨今、保護者の要望ばかりが目立つ世の中になっているが、和佐小学校は、学校と保護者が協力し合える関係であってほしいと願う。
- 子ども達の育成に実りある行事を吟味、精選し、どの子も生き生きと活躍する機会をどんどん与えてやってほしい。
- 「ごえん食堂」（子ども食堂）を月1回河南コミセンで実施している。福祉事業として、児童にも紹介してほしい。
- 保護者は仕事と家事の両立で非常に忙しいので、学校に協力する余裕がないと思うが、学校からの情報発信でその協力が得られるようにしていかなければならないと思う。
- 自治会の方でも、地域の子も達を繋ぐ行事を行っている。学校でも異学年の繋がりを作る取組をどんどんやり、一体感のある学校づくりに努めてほしい。
- あいさつをしてくれる児童が多い。学校での取組がしっかりとされているのが分かる。
- リーダー性を育てる教育を学校でもしっかりと積んでほしい。これからはAIなどの最先端技術が中心となり、人々の暮らしも日々変化していく時代である。しかし、人間同士の繋がりが大事なので、子ども達にはコミュニケーション能力を身に着けられる教育を是非とも推進してほしい。
- これからは、地域課題を解決していける人材が求められてくる。